

富山県スキー連盟競技本部

強化事業（合宿・大会遠征等）実施のための新型コロナウイルス感染症対策基本方針（第2版）

作成日 2020年11月30日（第1版）

更新日 2022年8月1日（第2版）

はじめに

この基本方針は、競技本部の強化活動を安全に開催するため、参加選手、引率者（コーチ）、保護者当関係者が感染症予防に留意して、自分だけは大丈夫だろう、このくらいなら大丈夫だろうといった考えではなく、「絶対に感染しない」「感染を拡大させない」といった高い意識をもって徹底的なリスク回避をして合宿・大会参加などの事業を進めるためのものとする。

感染症対策は、一般的な、マスク等の着用、手指の消毒、ソーシャルディスタンスの確保、こまめな換気を心掛け、詳細については、政府・富山県（県外は滞在地都道府県）や全日本スキー連盟等の関係機関が発行する新型コロナウイルス感染症ガイドライン等を順守、参考とする。

県外・海外での事業の場合は、引率者は事前に、訪問県（国）・地域の感染状況や感染対策を調べ感染症の対策に万全を期す。訪問先の該当保健所や近隣病院などの連絡先を確認し、万が一、参加者の中から体調不良者、感染者が発生した場合や、近くで感染事例が発生した場合に備える。

【感染対策基本事項】

- ・参加者は、日頃から感染症感染防止に心掛けて行動する。
- ・事業実施中は、使用施設、宿舎、公共交通機関等利用する場所や施設の感染症対策ガイドラインを順守する。
- ・マスク等の個々の感染症対策に必要な物品は、必要数量を参加者個人が準備して持参する。
- ・引率者は、共用スペース・物品のための感染症対策に必要なマスク、消毒薬、ビニール袋、手袋などの物品を予備も含め十分準備する。感染症対策の物品購入のための経費は最優先とする。
- ・事業実施中は、物品等の共用はできるだけ避ける。ワックスアイロン、ビデオ等共用するものは、使用後毎に消毒をする。
- ・体温は毎日起床時、夕食前までに測定する。体温計は各個人が専用の物を使用する。非接触型の体温計は、屋外で使用する場合に正常に機能する気温を下回ることが考えられるため使用には注意をする。
- ・引率者、選手がお互いに常に感染症対策についてチェックを行い、対策を怠らないようにする。
- ・常に感染状況や感染症対策の情報を収集する。
- ・体調不良者が発生した場合は、直ちに隔離して関係機関（管轄する保健所、病院等）に連絡し、指示に従う。同時に保護者（該当者が未成年の場合）、スキー連盟に連絡する。
- ・所属先（学校、勤務先）には、本人や保護者がすみやかに連絡する。
- ・感染者が発生した場合は、事業をすぐに中止する。
- ・事業終了5日以内に体調不良や感染確認があった場合は、本人・保護者は関係機関（管轄する保健所、病院等）、所属先（学校、勤務先）、引率者に連絡する。連絡を受けた引率者は直ちに参加者全員の健康調査を行い各部長に連絡する。
- ・海外遠征については、外務省等関係機関の渡航規定やSAJ新型コロナ対策ガイドラインに基づいて実施する。
- ・本基本方針に記載されていない事項等は、政府・富山県・SAJ新型コロナ対策ガイドライン等を

順守し感染症対策に努める

【具体的な対策について】

1 実施前

- ・参加者は、実施開始 10 日前から体温（起床時）、健康、行動を記録表に記録する。
- ・参加者は、自己の行動に留意し、感染リスクが高い場所への訪問を控える。
- ・感染者が出た場合、個人のみならず、チームや団体の行動に大きく影響し、制限が発生するため、新型コロナウイルスワクチンの 3 回目の接種（4 回目が実施されれば 4 回目の接種）を推奨する。
- ・濃厚接触者となった場合は、最終暴露日から 5 日日間（6 日目解除）は参加を自粛する。ただし、2 日目と 3 日目に抗原検査を実施し、陰性であれば 3 日目からは参加可とする。
- ・実施 10 日前の期間に、発熱等体調不良がある場合は、受診し医師等と相談して参加について検討して判断する。
- ・家族や身近な人が発熱等の体調不良者がある場合や濃厚接触者になった場合は、参加前に抗原検査を実施する等、事業への参加を慎重に検討する。
- ・宿舎は、できるだけ貸切での宿泊利用や一人部屋が確保できる宿舎を選定する。
- ・利用する地域やスキー場等などの滞在先で利用する地域や場所の感染症状況や感染症ガイドラインを調べて対応する。

2 移動中

- ・移動中は常に、マスク、フェイスシールド等を着用し、こまめに手指の消毒をする。
- ・公共交通機関を利用する場合は、各機関の感染症ガイドラインを順守する。
- ・貸切バスを利用する場合は、バス運行者の感染症ガイドラインを順守する。
- ・引率者・コーチが運転するマイクロバス等で移動する場合は、なるべく間隔をあけて着座する。運行中は、エアコン等で常に換気を行い、可能な場合は窓を開け常に換気をする。
- ・移送中の食事や休憩は、混雑する時間をずらす、少人数に分けて食事をするなど、食事中に密集しないように配慮する。
- ・引率者・コーチが運転するマイクロバス等は利用後に毎回消毒を行う。

3 宿舎

- ・宿舎に入る前には手指の消毒をする。
- ・部屋割りには、一人が望ましいが、困難な場合は、極力少人数の部屋割りとなるように配慮する。複数人での利用の場合、室内では常時マスクを着用することが望ましい。また、こまめに換気、消毒をする。
- ・部屋の換気を良くする。
- ・ワックスルームやビデオ視聴場所、エントランスなど宿舎共有部分では、混雑しないように配慮する。（ワックスルームについては後述する。）
- ・ビデオを見る場合は、一人ずつ視聴する。コーチがアドバイスする際はソーシャルディスタンス等感染症対策に留意する。ビデオ機材やリモコンは使用毎に消毒する。
- ・チームのミーティングは全体での集まりは極力避け、ビデオでの指導などは個別に行う。全体で集まる場合は内容を精選して、できるだけ短時間で行い換気、密集にならない場所を確保する。
- ・風呂を利用する場合は、3密を防ぐ。

- ・体調不良者が発生した場合の、隔離部屋や場所を準備しておく。

4 ワックスルーム

- ・ワックスルームは、換気を十分に行い、マスクやフェイスシールドを着用する。
- ・基本として、テーブル1台につき1名で使用する。
- ・2名以上で使用する場合は、1 m以上の間隔をとり、向かい合っでの使用は避ける。
- ・アイロン等共用備品やドアノブなど不特定多数が接触する場所は使用者ごとに、消毒を行う。

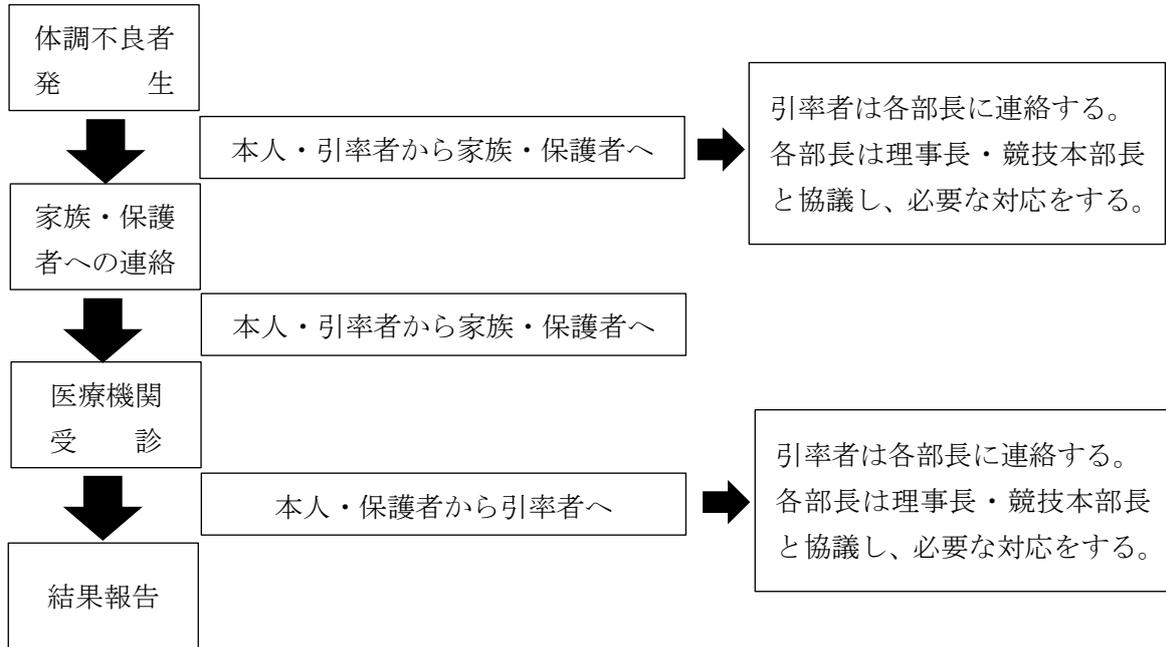
5 練習・大会会場

- ・会場内ではマスクを着用する。但し、練習や競技中は着用しなくてもよい。
- ・会場に感染症ガイドラインがある場合は、ガイドラインを順守する。
- ・指導の場面では、コーチと選手は十分な距離をとる。コーチは必ずマスクを着用する。
- ・他チームの選手やコーチとは必要以外の接触を避ける。会話等が必要な時は、マスクを着用し十分な距離を取る。
- ・ペットボトルや水筒など用具の使いまわしはしない。
- ・スタート地点等で列に並ぶ場合は、マスク等を着用し前後の間隔を空け密集を避ける。
- ・リフトはできるだけ一人で乗車する。2名以上で乗車する場合はマスクを着用する。
- ・レストハウスや休憩所などの利用の際は、時間帯や少人数のグループに分けるなどして混雑しないよう注意する。
- ・昼食をとる場合は、感染リスクが高く場面度あることに留意し、混雑する時間をさける、少人数に分けて食事をするなど感染症対策をする。

6 体調不良者が発生した場合

- ・体調不良者が発生した場合は、直ぐに体調不良者を隔離し、家族（未成年者の場合は保護者）に連絡して帰宅させ、医療機関を受診してもらう。受診の結果が分かり次第引率者に連絡する。
- ・引率者は、体調不良者が発生した場合各本部長に連絡し、各本部長は競技本部長に連絡する。
- ・体調不良や感染が疑われる症状が強い場合は、最寄りの保健所や医療機関に相談する。
- ・感染者が確認された場合は、保健所や医療機関の指示に従い対応する。

○体調不良者発生時のフローチャート



- ・ 結果に問題なければ事業継続。
- ・ 新型コロナウイルスの感染が確認された場合は関係機関の指示に従う。